

氏名（本籍） 稲生 涼子（愛知県）  
学位の種類 博士（音楽教育学）  
学位記番号 乙第20号  
学位授与年月日 令和6年3月19日  
学位授与の要件 学位規則第3条第4項  
学位論文題目 国際バカロレア初等教育プログラム・音楽における  
日本での小学校中学年を対象とした実践事例の研究  
—「概念」の理解に重点を置いた指導方法に着目して—

学位論文等審査委員

（総合審査）	委員長	准教授	瀧川 淳
		教授	阪上 正巳
		准教授	安部 博史
		准教授	伊藤 仁美
		准教授	三宅 博子
（論文審査）	委員長	准教授	瀧川 淳
		教授	阪上 正巳
		准教授	安部 博史
		准教授	伊藤 仁美
			松永 洋介（岐阜大学大学教授）

---

審査結果の要旨

審査所見

審査所見

学位審査委員会は、申請者稲生涼子の学位申請論文に関して、厳正な審査を行なった。1. 論文審査について、2. 総合審査について所見を記す。

1. 論文審査

提出論文「国際バカロレア初等教育プログラム・音楽における日本での小学校中学年を対象とした実践事例の研究 —「概念」の理解に重点を置いた指導方法に着目して—」は、国際バカロレアにおける初等教育プログラム（Primary Years Programme：以下、PYP）の音楽分野の指導法について、国際バカロレアで重視される「概念理解」に焦点を当てて、日本のインターナショナルスクールへの授業観察を通して明らかにしようと試みている。

まず本分野における研究は、これまでほとんどなされていない状況にあつて、またコロナウイルス感染症が流行している最中の授業観察であったという限られた条件下で、日本における国際バカロレアに準拠した音楽分野の指導方法を明らかにしようとした点において本論文の独創性は認められる。そして一条校への導入の可能性にひとつの示唆を与えたことも評価できる。

一方で、本論文において、いくつかの弱点と今後の展望も見出された。

第一に、コロナ禍にあつたとはいえ、指導法を明らかにするための実践事例が多いとはいえ、そのため明らかにされた「概念理解」には偏りがあり、豊かであるとはいえない。

第二に、授業分析においては、その研究手法をより徹底し、たとえば、非言語的コミュニケーションへの着目も必要ではないかとの指摘があつた。

また本研究では、音楽分野における PYP の指導理念に基づいた教育方法を明らかにすることに焦点が当てられているが、今後の課題として、芸術（音楽）のもつ独自性の面から、その指導法の批判的な検討も必要ではないかと思われる。さらには、国際バカロレアの教育プログラムが世界で展開されていることを考えると、今後、各国での実践事例の考察を含めることは有益な示唆となり得るのではないだろうか。

以上、提出論文について、弱点と今後の展望も含めて指摘したが、総合的にこの論文は、限定された範囲において丁寧な論考が進められており、またその独創性及び、音楽分野における PYP の指導方法を論じた基礎研究のひとつに位置付けられることから学位論文に相応しいと考える。

## 2. 総合評価

総合審査では、申請者の在籍中の活動や研究業績などを確認した。申請者は、本学において Research Assistant や留学生チューターを務めており、その他の大学を含む学校教育機関での教育経験も十分に認められる。研究業績としては、本研究に関連して科学研究費（スタートアップ）を獲得しており、また関連学会において研究成果の発表を行い、査読論文も提出していることから、高等教育機関で教育研究を進めるにあたっての十分な資質を有すると考える。

以上の観点を総合した上で「博士後期課程修了の認定に関する方針」に照らし合わせた結果、「博士（音楽）」の学位を授与するに相応しいものと判定する。